

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
ふれあい チャレンジ きらりかがやく 三里の子の育成	(1) 確かな学力の定着と指導力の向上 (2) 人間性豊かな心の育成 (3) たくましい体の育成

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 確かな学力の定着と指導力の向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	基本的な学習習慣・態度の定着	基本的な生活習慣と学習習慣の定着を図り、自主的な学習を充実させるために学習規律を身につけさせる。	・児童の学習習慣の意識化のために、「家庭学習十ヶ条」「自習学習のポイント」を各家庭に配布し、学級便りや懇談会等で保護者への啓発を図る。 ・スキルタイムを継続して実施し、読む・書く・話す・聞く学習活動での基本の定着を図る。	B	・望ましい学習習慣の確立の達成度合いを確認するため、年間6回の家庭教育指針ふりかえり強化週間を設けて、「家庭教育指針振り返り表」を基に家庭と連携して習慣の定着を図った。 ・基礎的、基本的内容のスキルタイムの継続により、学習活動の中で「考える力」の向上に努めた。	・大凡の児童においては、その改善がみられるものの、達成度合いが不十分な児童については今後において、更なる家庭との協力を図る必要がある。 ・理解度合いが不十分な内容を反復して取り組むスキルタイムを実施することで、既習内容の習熟を図る。
		確かな授業力の向上、専門性を高める研修	確かな学力を身に付けさせるために「分かる授業」づくりを行う。	・校内研究で、年5回の研究授業を行い、学習過程や取組の共通化を確認し、実践する。 ・自分の考えを持つ時間とともに、考えを発表し学び合う時間を確保する。 ・理解したことの定着を図るための時間を学習時間内に確保し、まとめの時間を充実させる。	B	・年5回の研究授業を行い、学習過程が定着した。 ・「勉強が分かる」という点に関して、「学び合い」や「まとめ」「振り返り」など、教師側は100%工夫・改善に努めていると回答しているものの、児童は93%、保護者は、87%と相互にずれが生じている。	・今後は、教師側が工夫・改善している点が伝わるような成果を出していかねばならない。そのためには、児童自身が1単位時間でも何を学び、何が分かったか、的確に答えられるよう「まとめ」「振り返り」を更に充実させる必要がある。 ・小テスト、ノート指導を細やかにし、1単位時間ごとに、児童一人一人の実態を把握する。
	●教育の質の向上に向けたICT活用教育の推進	ICTを積極的に活用した授業の実施	電子黒板やタブレットPCなどICTを積極的に活用した授業を構築し、児童の関心意欲と思考力を高める。	・各教科において、電子黒板やタブレットPCの有効な活用方法を研究し、授業で用いる。 ・ICTを利用した学習の推進に関する職員研修を行う。	B	・年度初めに、タブレット活用事例を扱った研修会を実施し、実践につなげた。 ・ICTを活用した授業実践を全学年で取り組むことができた。 ・機器の技術的課題を改善することや、新しいICT機器の周知、タブレット活用の推進を図る必要がある。	・利用技能をより高めるために、ICT支援員の定期的来校を図り、授業での機器サポートを依頼する。 ・職員研修として長期休業を中心に、機器操作や授業での具体的な実践に関する研修やデジタル教材の作成を行う。

② 人間性豊かな心の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	読書活動の推進	読書習慣の定着と読書好きな児童を目指し、全児童の100冊読破を目指す。	・3月末までに全児童の100冊読破を目指す。 ・貸出時における個人貸出冊数の意識付けを行う。 ・各学級で週に一度は図書館に行く機会をつくり、読書を促す。 ・「としまかんだより」で学年別貸出数を公表する。	A	・2月現在で、100冊読破達成者は56名で全校児童の95%を達成した。 ・返却期限を守れない児童の数は昨年度よりも減少したが、貸出冊数が少ない児童に延滞の傾向が見られる。 ・本の貸出冊数が少ない児童への指導が課題である。	・100冊読破を全校児童の目標だとすることを年度当初にオリエンテーションなどで再確認し100%を目指す。 ・延滞の児童には、担任及び保護者に協力を呼びかけ早急に返却させる。 ・貸出冊数が少ない児童は、図書館の時間には必ず借りさせること、本に興味をもたせるよう学習や行事に合わせて関係のある本の紹介などをする。
		礼儀・あいさつ	時と場所に応じた正しい言葉づかいができる児童を育成する。	・今年度の生活目標に「正しい言葉づかい」「あかるいあいさつ」を掲げ、学年に応じた取り組みを通し、丁寧な言葉づかいや明るいあいさつができるようにしていく。 ・友達を呼ぶ時に「さん」や「くん」を付けて呼ぶことができるようにする。	B	・昨年度は、児童の96%が「あいさつや返事ができている」と答えているのに対し、今年度は91%に減少していると同時に、保護者の評価も83%とわずかながら減っている。また、返事やあいさつができていない児童も減少傾向にある。学校でも家庭でも挨拶や返事ができるように、ふり返り表や現場指導に取り組んでいきたい。 ・人権集会で児童から名前を大切さと、「さん」や「くん」を付けて呼ぶことの発表があり、効果的だった。	・家庭教育指針ふりかえり表の事前の呼びかけと強化週間を終えた後の比較検討をし連絡会等で共通理解した後、具体策をプロジェクトで考える。 ・あいさつや返事を、学校では子ども同士で自然に交わし合い、家庭や地域でも進んでできるように、学校や地域の行事、いろいろな場面でその都度声をかける。
	●いじめ問題への対応	いじめゼロ	子どもの心の状態を常に把握し、いじめにつながる言動を見逃さない。	・月に1回心のアンケートを行い、子どもたち一人一人の心の状態を把握すると共に、気になる子への声かけを多く、かかわりを深める。 ・三里小いじめゼロ宣言を児童に示し、子どもの「いじめ」に対する危機意識を高める。 ・年2回のQUTテストを児童理解を深める手立てとして活用し、学級づくりを生かす。	B	・毎月、心のアンケートを実施することで児童の心の変化に気づき、事後指導に活かすことができた。 ・いじめ防止標語への取り組みを児童に呼びかけた。児童が相談するものが78%で昨年より低下している。学校が楽しいという児童は93%と高くなっている。より相談しやすい環境を整えたい。	・年度初めに「三里小いじめゼロ宣言」を児童に示し、いじめゼロに取り組む。 ・QUTテストを活用し、児童理解に努め、学級作りを活かすことが学校全体としてなされるような研修の機会を設ける。

③ たくましい体の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	児童の主体的・健康的な生活習慣の確立	健康的な生活に必要な知識を習得させ、自分の生活を見つめ直し、改善する力を向上させる。	・健康的な生活習慣を身につけるよう、月の生活目標にあげて全校的に取り組んだり、「ほけんだより」を発行し家庭と連携を図りつつある。 ・週1回のエチケット調べと学期1回のエチケット調べ強化週間を設け、重点的に取り組む。 ・家庭教育指針に学期2回ずつ取り組み、結果をたどりに公表し、健康的な生活習慣の定着を図る。	B	・家庭教育指針においては、昨年度に比べて、ゲームしない運動に対する意識が薄れてきている。 ・エチケット調べにおいては毎週、学期ごとの強化週間児童の意識が向上している。 ・保護者の意識が高まるにつれ、まだ、できていない面が明らかになった。	・家庭教育指針の振り返りの体験談を紹介し、啓発していく。 ・振り返り表で点数の低い項目については重点的に指導していく。 ・振り返り表に、年度当初から児童それぞれにめあてをたてさせ、取り組ませている。 ・班共遊の時間や昼休みを使って、長縄集会やスポーツチャレンジ週間など、体力を高める取り組みを増やす。
		食育の推進	よりよい食事のあり方を理解し実践するとともに食を通して感謝の心をもてる児童の育成を目指す。	・月別給食指導目標を掲示、各月の担当者がなかよしタイムの時に全体指導を行う。 ・食事のマナーとして箸の持ち方や姿勢などの掲示物を作成し指導する。 ・給食センターの栄養教諭を招いて、食について学ぶ機会を設定する。(学級指導、なかよしタイム等) ・児童一人一人が、それぞれの食べられる量を完食することで、できるだけ残食が出ないようにする。	B	・栄養教諭を招いて、箸の持ち方の指導をしていただいた。実際に体験できるキッドを使って箸の正しい持ち方を少しは身につけることができた。 ・学校評価アンケートで「苦手な物も食べようとしている」児童が88%あった。食の重要性を意識できている児童が少しずつ増えてきている。	・毎月の担当で給食指導ができてきたので、今後もより充実させていきたい。 ・献立作成の工夫や給食センターでの調理の工夫について、関心を高められるように、食に関する指導を計画的に実施していきたい。
	○体験活動の推進	体験活動を通じた実践力の育成	総合的な時間や三里ふれあい自然塾等での体験活動の実践と見直しを行い、活動の充実を図る。	・自然体験、農業体験、ボランティア体験の目的を児童に理解させ、計画的に取り組む。 ・振り返りカードを作成し、次年度の縦割り班活動、三里ふれあい自然塾などの活動に活用する。	B	・体験活動の計画的な実施はできたが、児童にめあてを意識させた活動が十分にできなかった。 ・三里ウォークやサマーキャンプについての振り返りカードを児童とスタッフに記入してもらった。昨年度の反省をもとに計画をたてて実施することができた。	・地域の方や、ボランティアスタッフの方に対して感謝の気持ちを持って、あいさつや礼儀を示すことができるよう指導を徹底していきたい。 ・児童の実態に応じて、主体的な体験活動ができるよう計画していきたい。 ・年間の行事や自然体験・農業体験・ボランティア体験活動について、毎年度、全職員での振り返りや見直しを行い連携して進めていきたい。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	○学校経営方針	学校教育目標及び経営方針、重点的な取り組みの周知	学校教育目標とその重点取り組みを保護者や地域、児童へ積極的に周知し、学校の取り組みについての理解度80%以上を目指す。	・目標の目指すところや達成状況について、授業参観、育友会総会、学校説明会等で具体的に説明し、理解してもらおう。 ・学校便り等で毎月1回以上触れることで周知を徹底する。	A	・昨年度より若干下回ったがそれでも95%の保護者が「教育活動の成果が出ている」と回答し、児童も95%が「学校教育目標のように頑張っている」と回答している。情報を発信することで学校での児童の育ちを共有することができてきている。	・学校の願いやめざすところを保護者に投げかけ、共に子どもを育てていく意識を持ってもらう。
	○教職員の資質向上	教職員の資質向上 服務規律の保持	教職員として自分の課題を見付け、積極的に研修会等に参加し、資質向上を図る。	・全員が教育センター研修講座に1回以上参加する。 ・長期休業を中心に、各種講座・講演会や研究発表会の案内を回覧し、積極的な参加を呼び掛ける。	A	・「教員は授業の工夫改善を行っている」と回答した保護者が96%で高い評価であった。教師も、全員が研修会等に参加し指導力や識見を高めていると回答している。 ・全教員が自分の課題をもち、教育センター講座やスキルアップ研修等に参加し、資質向上に努めることができた。	・今後も、各種講座・講演会や研究発表会の開催案内を回覧し、積極的な参加をよびかける。
	○開かれた学校づくり	保護者や地域に信頼される学校づくり	学校情報を積極的に発信するとともに保護者や地域の声を学校教育へ反映する。	・学校便りを月2回以上発行し、学校HPも更新担当を決め月2回以上更新する。 ・保護者や地域の学校教育に対する様々な声をアンケート等で集め、それを学校教育へ適切に反映させることで地域の中の学校づくりを進める。	A	・具体的方策を確実に実行してきたことで、保護者アンケートの結果、そう思う61%、だいたい思う35%と高い評価を得た。	・HP更新を楽しみにしている保護者もあり、それに応えるべく情報の提供に努めていきたい。
	保護者・地域との連携 地域の生活文化の拠点となる学校づくり	保護者・地域、一人一人との情報交換をより密にして、連携を深める。	・学校を地域の生活文化の拠点とするため、学校行事や育友会行事等について、機会をとりあえて積極的にまた早めに学校から情報発信する。 ・三里小サポーター隊への参加の呼びかけを行う。 ・行事毎に実施していたアンケートの内容や方法を検討・改善し、結果を反映させやすくする。	A	・学校便りや全戸配布チラシ等で情報を発信することで、学校行事や授業参観に多くの参加者があった。三里フェスタでは、最長子数の3倍近い参加者があった。 ・「学校は保護者や地域と連携、協力して教育活動に取り組んでいる」と思う保護者は95%で、高い評価であった。 ・「学校を地域の方に開放する「ふるさとギャラリー」には、今年度も絵画、ちぎり絵、写真、書など提供があり、年々	・現状に満足することなく、各行事後のアンケートの感想や意見をもとに内容の充実を図り、児童にとっても、参観者にとっても魅力的な行事にしたい。	

4 本年度のまとめ・次年度の取組

○アンケートからは、93%の保護者が教育活動の成果が出ていると回答するなど、本校教育活動に対しておおむね好意的な評価を得ることができた。また、児童の95%が学校教育目標のように頑張っていることがあると回答している。日々の教育活動を積み重ねてきた成果と考える。

○本校の特色の一つである保護者や地域と連携、協力した教育活動については、今年度も充実した取組ができ、保護者の評価も大変高かった。保護者への情報発信も積極的に進めると高く評価されている。今後も地域の生活文化の拠点として、より一層充実させていきたい。

○目標①学力向上(指導力向上)については、保護者、児童共に概ね高い評価であったが、アンケート結果が昨年度より若干下回ったことや、保護者の評価が児童や教師より低かったことを考え合わせ、どの項目もB評価とした。

○目標③たくましい体の育成もすべてB評価であった。早寝早起きはおおむね達成はしているものの、テレビ・ゲームについては昨年度より下回っていた。家庭における習慣づけの向上という課題が今年度も改善できなかったため、保護者との連携をより一層深めていかなければならない。

○中間評価については、各行事ごとに保護者や来校者へのアンケートを実施してきた。来校者への呼びかけを積極的にし、昨年度より多い回答を得ることができた。

●は共通評価項目、○は独自評価項目